

理想は共感共生型「和力社会」 ~ 関西には大きなポテンシャル ~ - 三大都市圏意識調査 -

【問合せ先】
財団法人 関西社会経済研究所
道本(どうもと)、矢田
TEL 06-6441-0145

(財)関西社会経済研究所(会長：秋山喜久)は、(株)電通、(株)博報堂の協力の下、関東・関西・中部の三大都市圏で実施した、社会・『公』に対する意識調査と地元に対する意識調査の結果を報告いたします。

1. 調査趣旨

日本経済の回復が6年目を迎える中、様々な構造改革のあり方や将来の少子高齢化を踏まえた政策のあり方や改革について多くの議論がなされている。これらの多くは、政策担当者や専門家など供給者サイドからの情報発信である。本調査は、主役である生活者の意識を明らかにすることを目的として実施。

2. 調査実施の概要

本調査は次の2つの調査よりなる。

A. 日本社会のあり方や『公』に対する意識調査

日本社会の現状や今後のあり方、また、市場化時代の課題として「公助」「共助」のバランスのあり方に関するインターネット調査。

- 実施期間 2006年11月
調査対象 20代以上
(20代、30代、40代、50代以上の各層各25%)
サンプル数 1,500サンプル
関西圏 500(男性250、女性250)
関東圏 500(男性250、女性250)
中部圏 500(男性250、女性250)

B. 地元に対する意識調査

三大都市圏の生活者意識や地元の景気動向に関するインターネット調査。また、『次代の関西』を描くために関東圏/中部圏からみた関西に関する調査も実施。前回調査(2004年2月実施;未公表)と比較可能な項目については比較データ添付

- 実施期間 2006年12月
調査対象 20~40代の会社員及び自営業者
サンプル数 1,200サンプル
関西圏 600(男性400、女性200)
関東圏 300(男性200、女性100)
中部圏 300(男性200、女性100)

3. 調査結果の概要

A. 日本社会のあり方や『公』に対する意識調査

生活者の理想は、共感共生型の「和力社会」。特に関西には「和力社会」を志向する人が多く、今後の日本社会のトップランナーともいえる。弱肉強食型の「自力社会」への支持は2割に過ぎなかった。

- (1)生活者は、現在は自己欲求が優先され過ぎと考えており、今後目指すべき方向としては、「共生」を挙げた。日本の社会の姿としては、個性尊重と協力・協調を重視する「共感共生型」の「和力社会」を最も支持している。
(2)一方で、国からの指導や規則・マニュアルを重視する旧来型の「管理重視型」である「他」力社会は3分の1の生活者が支持する。新しい潮流とされる自己責任・自己利益を重視する「弱肉強食型」の「自力社会」は2割の支持しか得られなかった。
(3)「和力社会」志向の人々の特徴として、公的業務の拡充は、非公共で行うべきとの意識が強いことが挙げられる。
(4)「和力社会」志向は、三大都市圏のどの地域でも最も支持が高い、また、関西には「和力社会」志向の人が多く、関西は今後の日本社会のトップランナーともいえる。

B. 地元に対する意識調査

足元では、関西の景気は悪いと見る人がほぼ半数を占める。しかしながら関西の人には地域に貢献しようとする意欲が備わっており、自らが気づいていない強みや弱みに留意して地域活性化を図るべき。

- (1)関西の現在及び将来(10年後)の景気認識は、関東・中部より悪い。この景気認識が「生活の幸福度」の理由(仕事環境への満足度)や「地元企業への満足度」の評価の足かせとなっている傾向が見られる。
(2)関西人は、地元への愛着が高く、また、地域に貢献したいという思いが強い。
(3)外部から見た「治安の悪さ」「怖い地域」「交通マナー」のマイナス面、観光や食文化に対するプラス面に、関西人は気づいていない。
(4)関西・関東は女性の主体性が男性より高い。特に、関東の女性の仕事環境への満足度が顕著に高い。

次代の関西に向けて

- 【1】景気は回復基調を取り戻したとはいえ、関西の生活者は未だその実感に乏しい。今こそ、企業には、その活性化を通じた地元へのさらなる貢献を期待したい。また、地元は企業をもっと呼び込めるような体制・インフラ作りを(ただ待っているだけでは企業は来ない)。
【2】外部評価を真摯に受け止め、特に関西への評価の高い他地域の若年層や女性に対してマイナスイメージの払拭努力をすべき。
【3】関東の女性のように、関西の女性にもっと仕事関係でも活躍の場を。その主体性の高さを活かさないか。
【4】関西人には共感共生型「和力社会」志向する人が多く、関西人の協調資質や地元貢献意識の高さが地元活性化の鍵となる。今後高齢化時代を迎える中で、特に団塊世代による地域活性化への貢献を期待したい。また、他地域からみて地域間交流に対する期待も大きい。

<参考データ> 頁Noは報告書要旨

(1)今後目指すべき項目として「共生」は現状36.8% 理想70.3%と33.5ポイントの大幅アップ P3
(1)(2)構成比は「和力」43.9%、「他力」35.2%、「自力」20.9% P4
(3)<全体>拡充すべき公的業務 医療・介護 防犯・治安 高齢者 地球環境保護 防災 P8
- 非公共が担うべきとの回答は19項目中、「和力」12項目でトップ。「自力」6、「他力」は1項目でのみ。また、平均回答個数は、「和力」5.01個、「他力」4.18個、「自力」4.40個 P9
(4)地域別でも「和力」がトップ。また、関西人は「和力」志向が多い P10
関西:「和」47.6%「他」35.2%「自」20.9%
関東:「和」41.2%「他」34.2%「自」24.6%
中部:「和」43.0%「他」39.4%「自」17.6%

(1) 現在の地元の景気認識 P12
「良い(%)」関東27.0 関西11.2 中部57.3
「悪い(%)」関東22.7 関西49.2 中部9.0
「生活の幸福度(%)」関東59.4 関西59.8
中部57.0と横並びも、仕事環境・経済活動に対する評価は低い P14
「地元企業への満足度」は6項目全てで最下位 P15
(2) 関西は地元への愛着度がトップ(関西91.8%、関東78.0%、中部79.7%)でその理由は生活環境・住民同士の交流 P16、17
「自分の仕事を通じて地元経済を良くしたい」 関西60.1%、関東49.7% 中部55.3% P26
(3) 他地域からみた関西のイメージ及び「強み」「弱み」「期待」 P18~20
他地域の女性・若年層の評価 P22、23
(3) 地元生活者主体性 P24
女性の地元企業への満足度 P25